

小坂まさ代

国分寺・生活者ネットワーク政策担当



市政に提案していきます！
つながる社会、協働ですすめるまちづくり
小さな声を受け止め
おとなも子どもも暮らしやすいまちに

● 高橋亜美 (子どもたちの自立支援相談所)

まさ代さんに会うとなぜかにつこり笑顔になって話したいことがあふれてくる。いつでも誰かと誰かの架け橋になって奔走してどんな小さな声にも耳をかたむけてくれる。「どんな家庭で生まれ育っても、安心して楽しく暮らせる社会」をまさ代さんとつっていききたい。

● 小林良壽 (古書まどそら堂)

さまざまな暮らしがあります。どんな暮らしでも誰もが幸せになりたい。暮らしを見つめる眼は確かな小坂さん。その眼を行政に活かせば、わたしたちの暮らしをより良いところへ導いてくれるはず。期待しています。

● 笹泰子 (明日の自由を守る若手弁護士会 弁護士)

小坂まさ代さんは、まちかどで人権・憲法・哲学など様々な学びの機会を紡いでこられました。ひとりひとりの想いを深め、声を集め、市政に届けることのできる、小坂さんを心から応援しています。

- | | |
|-------|-----------------------------------|
| 矢島床子 | 矢島助産院 |
| 吉岡淳 | たまりば地球市民くらぶ代表 |
| 深津高子 | ピースポート洋上「子どもの家」アドバイザー／国際モンテッソーリ教師 |
| 兒嶋俊郎 | 兒嶋画廊 |
| 鈴木純 | 植物観察家／植物生態写真家 |
| 小林洋子 | まちのおやこテーブル |
| 青木知子 | ははがよむ |
| 永島宏子 | NPO法人じぶん未来クラブ |
| 尾見紀佐子 | 株式会社マザーディクショナリー代表 |
| 森山裕之 | 株式会社スタンド・ブックス代表 |
| 天野和明 | 国際山岳ガイド／アルピニスト |
| 佐藤美保 | 八王子おんぶ育児の会代表 |
| 西脇さやか | 劇あそび・表現教育ファシリテーター／臨床心理士 |
| 青木光左代 | 発酵家族 |
| 岡本正子 | 管理栄養士／国際薬膳師 |
| 平島毅 | 画家 |
| 船橋旭 | 市民講師 |
| くばいなみ | 憲法のおはなし |
| 山田真 | 八王子中央診療所小児科医 |
| 中川李枝子 | 絵本作家 |
| 増田和美 | 生活クラブ生協東京理事長 |
| 山内れい子 | 都議会議員 |
| 高瀬かおる | 市議会議員 |



市議会議員
東京・生活者ネットワーク
政策委員

岩永やす代

市政を小坂まさ代に
バトンタッチ
都政に挑戦！
ともに連携し市民発の
まちづくりをすすめます

NET 国分寺・生活者ネットワーク

生活者ネットこくぶんじ No.148 小坂まさ代レポート

発行日：2021年5月15日 発行：国分寺・生活者ネットワーク
発行責任者：田中由紀 〒185-0003 国分寺市戸倉1-8-43-206
TEL:042-328-1864 FAX:042-328-1878
kokubunji@seikatsusha.net https://kosaka.seikatsusha.me
みなさまのキャンパをお待ちしております
キャンパ振込先 郵便振替口座 00110-8-93911

● 全ての子ども^{すべ}の学びと遊び^こを保障^{まな}します

● もっと子育て^こしやすい^{そだ}まちに
～子ども理解^こと幅広い^り育児^{かい}参加^はを促進^はします

● 持続可能な暮らし^じと社会^{ぞく}をつくり^{しん}ます

● 国分寺崖線^{こくぶんじ}、湧水^{がいせん}、野川^{ゆうすい}の水と緑^のを守り^{がわ}ます

● 多様性^たを認め^{ようせい}合う^みジェンダー^と平等^あ社会^{びょうどう}を
目指^めします

● 認知症^{にんちしょう}になっても安心して暮らし^{あんしん}せる^くまちをつくり^くます

● 子ども議会^こなど、子ども^ぎを含め^{かい}多様な^こ市民^{ふく}参加^たの^{よう}
しくみ^しをつくり^{みん}ます

● 庁舎^{ちやうしゃ}や新しい^{あたら}まちのカタチ^あは、

市民^しとともに描^{みん}きます

● 「心配^{しん}」にすぐ対応^{ばい}できる^{たい}コロナ^お対策^うで

命^{いのち}と暮らし^くを守り^{まも}ます

● 子ども^こと一緒^{いっしょ}に平和^{へい}・人権^わを学^{じん}べる^{けん}場^{まな}をつくり^ばます

小坂まさ代プロフィール

■1969足立区生まれ(51歳)。都立上野高校卒 ■92立教大学経済学部経済学科卒 ■92～2000百貨店、インテリアショップ勤務 ■01～03公益社団法人足立区生涯学習振興公社、足立区立舎人図書館非常勤職員 ■08生活クラブ生協加入 ■13～18渋谷区子ども・親子支援センター「かぞくのアトリエ」、15～18児童館「代官山ティーンズクリエイティブ」勤務 ■18～19国分寺市立第四小PTA会長、国分寺市立小・中学校PTA連合会理事 ■19～20国分寺市社会教育課放課後子どもプランコーディネーター、第7期国分寺市教育委員会図書館運営協議会委員 ●家族：夫、子ども2人 ●泉町在住

小坂まさ代 検索

<https://kosaka.seikatsusha.me/>



生活者ネットワーク3つのルール

- 1 議員は交代制 (ローテーション)
- 2 議員報酬は市民の活動資金に
- 3 選挙はカンパとボランティアで

子どもたちの今と未来のためにできることがある。

小坂まさ代のこれまでのあゆみをご紹介します

2008年 天井までの本棚がある部屋に魅かれ、国分寺市に夫と転居。第一子出産。

2009年 苦手な家事、慣れない育児に悩む。本多公民館「幼い子のいる親のための教室」に参加。保育付きの学びの時間での心を取り戻し、友人がで始める。

2010年 第一子保育園入園。モンテッソーリ教師の深津高子さんと出会う。「子どもは空っぽのバケツではなく、球根である」という考え方に感銘を受ける。

2011年 第二子を矢島助産院で出産。産前、出産、産後のつながりのあるケアの重要性を実感。友人たちと深津高子さんのお話し会を開催。

2012年 第二子保育園入園。「ぶんハピねっと」ライターとなり、市内各所を取材。発信する楽しさを知る。

2013年 家庭文庫に保育園で

のお話し会を依頼。自らも読み手としてデビューし、現在まで50回以上開催。渋谷区子ども親子支援センターで働き始める。

2014年 公園で参加型のお話し会を初開催。保育園で「わらべ歌と絵本の時間」をスタート。呑みながら古書店で朗読する会「ほろ酔い夜話」始まる。2019年まで計14回開催。

2015年 小林洋子さんに賛同し、「まちのおやこテーブル」の活動を共にする(～2019)。



渋谷区児童館の勤務始まる。青梅市沢井で、モンテッソーリの先生方と曹洞宗住職を講師に親子ワークショップと坐禅とお話し「川とお寺とおやこの時間」を開

催。2017年まで計6回開催。

2016年 公園での参加型お話し会が「まちのおやこテーブル」の都立公園のイベントとして開催されるようになり毎年春と秋に実施(～2019)。

2017年 小学生の哲学対話を古書まどそら堂にて初開催。以後クルミドコーヒーやカフェローでも開催。憲法カフェに参加した後、自らも企画するようになる(計5回開催)。

2018年 第二子小学校入学を機に離職。四小PTA会長、P連理事就任。若永やす代市議と府中市放課後子どもプラン見学。国分寺・生活者ネットワークに参加(子ども部会)。私に還る本の時間「ははがよむ」メンバーとして、わらべうたと絵本のお話し会を本多公民館で開催。母たちが絵本を紹介展示する「絵本と子どもと暮らし展」開催。来場者100人を超える。

2019年 放課後子どもプランコーディネーターとして、年間約20本を企画実施。多摩地域で

学ぶ場を作る「シェアリング・ラーニング」を友人たちと開始。国分寺プレイステーション移転案を機に「遊ぶって何?」(参加型座談会)を企画。こくベジのじかん@cocobunjiプラザに読み聞かせで参加。「みんなで民主主義を考える会」(みんなかん)立ち上げ。

2020年 コロナ禍の突然の休校に際し地域でできることを考える。こどもてつがく@丘の上APT、プレイキッズシアター表現ワークショップ「自分だけの物語をつくらう」@いずみホール開催。ぶんぶんウォーク「はじめまして!ぶんじ寮へようこそ!」企画。

2021年 多摩未来協創会議への参加から「おしごと体験講座+子ども古本市」を企画し、セレオ国分寺にて開催。

小坂まさ代についてより詳しい情報はHPにてご紹介しています。QRコードからどうぞ。



<https://kosaka.seikatsusha.me/>



小坂まさ代が大切にしてきた活動(抜粋)



● みんなみんかん

誰もが持つ「人権」を子どもの頃から知ってほしいと思います。ビンゴやカルタで憲法や権利を楽しく学べるお話し会や、図書館から「公共」について考える会を企画しました。



● 放課後子どもプラン

校庭や図書室開放など安全な放課後の居場所を提供する国分寺市社会教育課の事業。コーディネーターとして、面白い大人と出会う場の企画に取り組みました。



● 絵本とわらべうた

子どもが赤ちゃんの頃、魅力的な語り手や歌い手と出会い、読んだり歌ったりすることで私自身が優しい気持ちになることに気づき、自ら企画するようになりました。



● こどもてつがく

答えのなかなか出せない問いを自ら見つけ、考え、他の人の話を聞き、安心して話せる会。対話を通じて生きる力を学んでほしいと地域のカフェなどで開催してきました。

子どもの思い出エッセイ 真夏のお濃茶

一人の知り合いもないこの町に引越して7年目を迎えたある夏の日の仕事帰り。家の近くで子ども達の泣き声。もしや...と思いつきながら角を曲がると、お隣のおばあちゃんのご近所の方と、泣きじゃくる長女。学童のお迎えが18時だと思っていたら、予定表には「17時一人帰り」と記入していた。やってしまった!

暑い中、鍵のかかった玄関でしばらく待ったが母が帰ってこない。駅の方へとウロウロしているうちに不安でいっぱいになり、涙が出てきた。見かねた近所の方が声を掛け、お隣に連れてきてくださったところだった。「ママのバカー」と号泣する長女。おばあちゃんは近所の方に「どうもありがとう。ウチの孫みたいなものなの」とお礼を言い、長女には「ママが悪かったね。おばあちゃんも怒っておくね」と私の頭をコツンと叩いて見せた。

「さあ、二人とも中に入りなさい」。出して下さったのは、お濃茶に氷を入れた冷たいお抹茶。「真夏にお友達が来るといれるのよ。子ども用に薄めにいれてみたの」。お薄では味がボヤけて美味しくないのだと、わざわざお濃茶をたてて。

「いつもはお茶碗も冷やしておくのだけど、今日は急だったから」と優しい笑みを浮かべながら栗饅頭も添えて下さった。お茶碗を両手に包むようにして、娘は生まれて初めて飲む濃い緑色した冷たいお抹茶を、ごくごくといいただいた。

「今度は、おばあちゃんちのベルを鳴らすのよ。」ご自身の子育ての失敗エピソードに加え「いつでもここにいらつしやい」と言ってくれた。疲れきった金曜日の夕方、心がふっと解けて涙が止まらなかった。

それから3年後の春、次女の入学を機に私は離職。学童保育のお世話にはならない選択をし、地域での活動にのめり込んでいく。

そして、6年後。その長女も中学生になり、私はとても大きな決断をした。周囲の方々に支えてもらった一人の母親として、この町の子どもの未来のためにできることがあるのならと。一人ひとりの日常が幸せであるように祈るような気持ちで。

一人の知り合いもないこの町に引越して7年目を迎えたある夏の日の仕事帰り。家の近くで子ども達の泣き声。もしや...と思いつきながら角を曲がると、お隣のおばあちゃんのご近所の方と、泣きじゃくる長女。学童のお迎えが18時だと思っていたら、予定表には「17時一人帰り」と記入していた。やってしまった!

暑い中、鍵のかかった玄関でしばらく待ったが母が帰ってこない。駅の方へとウロウロしているうちに不安でいっぱいになり、涙が出てきた。見かねた近所の方が声を掛け、お隣に連れてきてくださったところだった。「ママのバカー」と号泣する長女。おばあちゃんは近所の方に「どうもありがとう。ウチの孫みたいなものなの」とお礼を言い、長女には「ママが悪かったね。おばあちゃんも怒っておくね」と私の頭をコツンと叩いて見せた。

「さあ、二人とも中に入りなさい」。出して下さったのは、お濃茶に氷を入れた冷たいお抹茶。「真夏にお友達が来るといれるのよ。子ども用に薄めにいれてみたの」。お薄では味がボヤけて美味しくないのだと、わざわざお濃茶をたてて。

「いつもはお茶碗も冷やしておくのだけど、今日は急だったから」と優しい笑みを浮かべながら栗饅頭も添えて下さった。お茶碗を両手に包むようにして、娘は生まれて初めて飲む濃い緑色した冷たいお抹茶を、ごくごくといいただいた。

「今度は、おばあちゃんちのベルを鳴らすのよ。」ご自身の子育ての失敗エピソードに加え「いつでもここにいらつしやい」と言ってくれた。疲れきった金曜日の夕方、心がふっと解けて涙が止まらなかった。

それから3年後の春、次女の入学を機に私は離職。学童保育のお世話にはならない選択をし、地域での活動にのめり込んでいく。

そして、6年後。その長女も中学生になり、私はとても大きな決断をした。周囲の方々に支えてもらった一人の母親として、この町の子どもの未来のためにできることがあるのならと。一人ひとりの日常が幸せであるように祈るような気持ちで。

